

CASBEE®-建築(新築)

■ 評価結果 ■

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版 | 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

1-1 建物概要				1-2 外観			
建物名称	あぶくま信用金庫 新本店			階数	地上4F		
建設地	福島県南相馬市原町区栄町二丁目			構造	S造		
用途地域	商業地域			平均居住人員	35 人		
地域区分	5地域			年間使用時間	2,178 時間/年(想定値)		
建物用途	事務所			評価の段階	竣工段階評価		
竣工年	2024年11月 竣工			評価の実施日	2024年11月12日		
敷地面積	1,184 m ²			作成者	柳沢 茂生		
建築面積	350 m ²			確認日	2024年11月12日		
延床面積	1,307 m ²			確認者	柴田千恵		

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE =1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

100

50

0

0

50

100

3.0

1.5

BEE=1.0

81

41

S

A

B+

B-

C

環境品質 G

環境負荷 L

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値

②建築物の取組み

③上記+②以外の

④上記+

建設

修繕・更新・解体

運用

オンサイト

オフサイト

0

46

92

138

100%

87%

87%

87%

(kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物（参照値）と比べたライフサイクルCO2 排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

Q2 サービス性能

Q1 室内環境

Q3 室外環境 (敷地内)

LR1 エネルギー

LR2 資源・マテリアル

LR3 敷地外環境

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Q1 室内環境

Q1のスコア= 3.3

5

4

3

2

1

2.6

3.0

3.4

4.2

音環境

温熱環境

光・視環境

空気質環境

Q2 サービス性能

Q2のスコア= 3.5

5

4

3

2

1

3.9

3.2

3.4

機能性

耐用性

対応性

Q3 室外環境 (敷地内)

Q3のスコア= 3.4

5

4

3

2

1

3.0

4.0

3.0

生物環境

まちなみ

地域性・

LR 環境負荷低減性

LR1 エネルギー

LR1のスコア= 3.3

5

4

3

2

1

4.8

3.0

2.9

3.0

建物外皮の

自然エネ

設備システ

効率的

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア= 3.4

5

4

3

2

1

3.4

3.1

4.3

水資源

非再生材料の

汚染物質

LR3 敷地外環境

LR3のスコア=3.4

5

4

3

2

1

3.5

3.5

3.3

地球温暖化

地域環境

周辺環境

3 設計上の配慮事項

総合

開放感あるガラスのカーテンウォール（エアフロー）＆木質ハイブリット構造を兼ね備えた暖かみのある建築とした。

Q1 室内環境

全ての内装材にF☆☆☆☆又は建築基準法規制対象外となる建築材料を使用している。
十分な換気量を確保している。

Q2 サービス性能

階高を確保し、開放感のある設計としている。

Q3 室外環境（敷地内）

敷地内に周囲との調和のとれた緑化を行い、地域性への配慮に努めている。

LR1 エネルギー

標準的なBEIm以下となっている。

LR2 資源・マテリアル

有害物質を含まない材料を積極的に使用している。

LR3 敷地外環境

施設利用者のための、駐輪場、駐車場のための十分なスペースを確保している。

その他

特になし

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

あぶくま信用金庫 新本店

■使用評価マニュアル CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

■評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2021SDGs(v1.2)

スコアシート		竣工段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										3.4
Q1 室内環境							0.40		-	3.3
1 音環境						2.6	0.15	-	-	2.6
1.1 室内騒音レベル		—		1.0		0.40	-	-		
1.2 遮音				4.2		0.40	-	-		
1	開口部遮音性能	T-2以上を採用		5.0		0.60	-	-		
2	界壁遮音性能	トイレ、オフィス周りに吸音材の採用		3.0		0.40	-	-		
3	界床遮音性能(軽量衝撃源)	—		-		-	-	-		
4	界床遮音性能(重量衝撃源)	—		-		-	-	-		
1.3 吸音		天井に岩綿吸音板の採用		3.0		0.20	-	-		
2 温熱環境						3.0	0.35	-	-	3.0
2.1 室温制御				3.0		0.50	-	-		
1	室温	冬期22℃、夏期26℃を実現するための設計となっている		3.0		0.38	-	-		
2	外皮性能	屋根:硬質ウレタンフォーム、外壁:吹抜け硬質ウレタンフォーム		3.0		0.25	-	-		
3	ゾーン別制御性	個別空調システム		3.0		0.38	-	-		
2.2 湿度制御		夏期45%、冬期40%を確保できる設計をしている		3.0		0.20	-	-		
2.3 空調方式		冷暖房切替可能な空調システムなど一般的な設計		3.0		0.30	-	-		
3 光・視環境						3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 屋光利用				2.4		0.30	-	-		
1	屋光率	—		2.0		0.60	-	-		
2	方位別開口	—		-		-	-	-		
3	屋光利用設備	—		3.0		0.40	-	-		
3.2 グレア対策				5.0		0.30	-	-		
1	屋光制御	電動ブラインドの採用		5.0		1.00	-	-		
3.3 照度		事務室500lx以上の照度		3.0		0.15	-	-		
3.4 照明制御		作業単位で照明調整可能		3.0		0.25	-	-		
4 空気質環境						4.2	0.25	-	-	4.2
4.1 発生源対策				5.0		0.50	-	-		
1	化学汚染物質	仕上りはF☆☆☆☆とする		5.0		1.00	3.0	-		
4.2 換気				3.6		0.30	-	-		
1	換気量	換気量は30m3/h・人		4.0		0.33	-	-		
2	自然換気性能	自然換気有効開口面積1/50以上		3.0		0.33	-	-		
3	取り入れ外気への配慮	6m以上離している		4.0		0.33	-	-		
4.3 運用管理				3.0		0.20	-	-		
1	CO ₂ の監視	—		1.0		0.50	-	-		
2	喫煙の制御	喫煙室無		5.0		0.50	-	-		
Q2 サービス性能						—	0.30	-	-	3.5
1 機能性						3.9	0.40	-	-	3.9
1.1 機能性・使いやすさ				3.6		0.40	-	-		
1	広さ・収納性	1人当たりの執務スペースが6㎡以上		3.0		0.33	-	-		
2	高度情報通信設備対応	OAフロアの採用		3.0		0.33	-	-		
3	バリアフリー計画	人にやさしいまちづくり条例適合		5.0		0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性				4.6		0.30	-	-		
1	広さ感・景観	事務室の天井高2.9m以上		5.0		0.33	-	-		
2	リフレッシュスペース	リフレッシュスペース1%以上		4.0		0.33	-	-		
3	内装計画	内外装共にコンセプトに基づいた設計		5.0		0.33	1.0	-		
1.3 維持管理				3.5		0.30	-	-		
1	維持管理に配慮した設計	風除室の1次扉と2次扉に適切な距離を確保している		4.0		0.50	-	-		
2	維持管理用機能の確保	SKが確保されている		3.0		0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性						3.2	0.30	-		-
2.1 耐震・免震・制震・制振				3.0		0.50	-	-		
1	耐震性(建物のこわれにくさ)	建築基準法に定められた耐震性を有している		3.0		0.80	-	-		
2	免震・制震・制振性能	—		3.0		0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数				3.8		0.30	-	-		
1	躯体材料の耐用年数	—		3.0		0.20	-	-		
2	外壁仕上り材の補修必要間隔	セラミックタイル(乾式工法)		5.0		0.20	-	-		
3	主要内装仕上り材の更新必要間隔	—		3.0		0.10	-	-		
4	空調換気ダクトの更新必要間隔	—		3.0		0.10	-	-		
5	空調・給排水配管の更新必要間隔	給水B、汚水・雑排水B、通気管A		5.0		0.20	-	-		
6	主要設備機器の更新必要間隔	空調機		3.0		0.20	-	-		
2.4 信頼性				3.2		0.20	-	-		
1	空調・換気設備	—		3.0		0.20	-	-		
2	給排水・衛生設備	節水器具の採用、受水槽に蛇口設置		4.0		0.20	-	-		
3	電気設備	非常用発電機を設置している		4.0		0.20	-	-		
4	機械・配管支持方法	基準に従った設計となっている		3.0		0.20	-	-		
5	通信・情報設備	精密機器はFLより上へ設置		2.0		0.20	-	-		

3	対応性・更新性			3.4	0.30	-	-	3.4
	3.1 空間のゆとり			4.2	0.30	-	-	
	1	階高のゆとり	1階の階高3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
	2	空間の形状・自由さ	レベル3:壁長さ比率0.47	3.0	0.40	-	-	
	3.2 荷重のゆとり		事務スペース2900N/m ²	3.0	0.30	-	-	
	3.3 設備の更新性			3.2	0.40	-	-	
	1	空調配管の更新性	PSの確保	3.0	0.20	-	-	
	2	給排水管の更新性	PSの確保	3.0	0.20	-	-	
	3	電気配線の更新性	EPSの確保	3.0	0.10	-	-	
	4	通信配線の更新性	制御室の確保	5.0	0.10	-	-	
	5	設備機器の更新性	—	3.0	0.20	-	-	
	6	バックアップスペースの確保	—	3.0	0.20	-	-	
Q3 室外環境(敷地内)				—	0.30	-	-	3.4
1	生物環境の保全と創出		外構緑化指数17%	3.0	0.30	-	-	3.0
2	まちなみ・景観への配慮		周囲の景観に合わせた建物形状	4.0	0.40	-	-	4.0
3	地域性・アメニティへの配慮			3.0	0.30	-	-	3.0
	3.1	地域性への配慮、快適性の向上	—	3.0	0.50	-	-	
	3.2	敷地内温熱環境の向上	—	3.0	0.50	-	-	
LR 建築物の環境負荷低減性					-	-	-	3.3
LR1 エネルギー				—	0.40	-	-	3.3
1	建物外皮の熱負荷抑制		モデル建物法BPI _m :0.82	4.8	0.20	-	-	4.8
2	自然エネルギー利用		—	3.0	0.10	-	-	3.0
3	設備システムの高効率化		—	2.9	0.50	-	-	2.9
4	効率的運用			3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価			3.0	1.00	-	-	
	4.1	モニタリング	—	3.0	0.50	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	3.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価			-	-	-	-	
	4.1	モニタリング	—	-	-	-	-	
	4.2	運用管理体制	—	-	-	-	-	
LR2 資源・マテリアル				—	0.30	-	-	3.4
1	水資源保護			3.4	0.20	-	-	3.4
	1.1	節水	節水器具の採用	4.0	0.40	-	-	
	1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
	1	雨水利用システム導入の有無	—	3.0	0.70	-	-	
	2	雑排水等利用システム導入の有無	—	3.0	0.30	-	-	
2	非再生性資源の使用量削減			3.1	0.60	-	-	3.1
	2.1	材料使用量の削減	—	2.0	0.11	-	-	
	2.2	既存建築躯体等の継続使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	—	3.0	0.22	-	-	
	2.5	持続可能な森林から産出された木材	—	-	-	-	-	
	2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	OAフロアの採用	4.0	0.22	-	-	
3	汚染物質含有材料の使用回避			4.3	0.20	-	-	4.3
	3.1	有害物質を含まない材料の使用	エマルジョン系塗料の採用	5.0	0.30	-	-	
	3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
	1	消火剤	—	-	-	-	-	
	2	発泡剤(断熱材等)	硬質ウレタンフォームA種1Hの使用	5.0	0.50	-	-	
	3	冷媒	ODP=0の冷媒を使用	3.0	0.50	-	-	
LR3 敷地外環境				—	0.30	-	-	3.4
1	地球温暖化への配慮		—	3.5	0.33	-	-	3.5
2	地域環境への配慮			3.5	0.33	-	-	3.5
	2.1	大気汚染防止	オール電化	5.0	0.25	-	-	
	2.2	温熱環境悪化の改善	—	3.0	0.50	-	-	
	2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
	1	雨水排水負荷低減	—	3.0	0.25	-	-	
	2	汚水処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	3	交通負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
	4	廃棄物処理負荷抑制	—	3.0	0.25	-	-	
3	周辺環境への配慮			3.3	0.33	-	-	3.3
	3.1	騒音・振動・悪臭の防止		-	-	-	-	
	1	騒音	—	-	-	-	-	
	2	振動	—	-	-	-	-	
	3	悪臭	—	-	-	-	-	
	3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.67	-	-	
	1	風害の抑制	風害対策に対する要望なし	3.0	0.70	-	-	
	2	砂塵の抑制	—	3.0	-	-	-	
	3	日照障害の抑制	—	3.0	0.30	-	-	
	3.3	光害の抑制		4.0	0.33	-	-	
	1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	—	4.0	0.70	-	-	
	2	屋光の建物外壁による反射光(グレア)への対策	ダブルスキンによるグレアの抑制	4.0	0.30	-	-	

CASBEE-建築(新築)2021年SDGs対応版

あぶくま信用金庫 新本店

評価する取組み	合計	合計2	No.1	No.2	No.3	No.4	No.5	No.6	No.7	No.8	No.9	No.10	No.11	No.12	No.13
Q2 サービス性能															
1.2.3 内装計画	4.0	-	○	○	○	○	-	-	-	-					
1.3.1 維持管理に配慮した設計	7.0		○	○	○	-	○	○	○	-	-	○	-	-	-
1.3.2 維持管理用機能の確保	4.0		-		-	-	-	○	-	○	○	-	○	-	-
2.4.1 空調・換気設備	-		○	-	-	-	-								
2.4.2 給排水・衛生設備	3.0	3.0	○	○	-	-	-	-	○						
2.4.3 電気設備	1.0	1.0	○	-	-	-	-	-							
2.4.5 通信・情報設備	1.0		-	-	○	-	-	-							
Q3 室外環境(敷地内)															
1 生物資源の保全と創出	8.0		2.0	-	1.0	-	1.0	1.0	1.0	1.0	-	1.0	-		
2 まちなみ・景観への配慮	4.0		2.0	1.0	-	1.0	-	-							
3.1 地域性への配慮、快適性の向上	2.0		-	-	-	1.0	-	1.0	-	-					
3.2 敷地内温熱環境の向上	7.0		-	2.0	-	1.0	-	-	-	2.0	2.0				
LR1 エネルギー															
2 自然エネルギー利用	-		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
LR2 資源・マテリアル															
1.2.2 雑排水等再利用システム導入の有無			-	-	-	-	-	-	-	-					
2.1 材料使用量の削減	-		-	-	-										
2.3 躯体材料におけるリサイクル材の使用			-	-	-	-	-								
2.6 部材の再利用可能性向上への取組み	1.0		-	-	○	-									
3.1 有害物質を含まない材料の使用	5.0														
LR3 敷地外環境															
2.2 温熱環境悪化の改善	7.0		1.0	-	1.0	3.0	1.0	-	-	1.0	-	-			
2.3.3 交通負荷抑制	2.0		-	-	1.0	-	1.0	-							
2.3.4 廃棄物処理負荷抑制	3.0		-	1.0	1.0	-		-	1.0						
3.2.2 砂塵の抑制	2.0		2.0	-											
3.3.1 屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	3.0		1.0	2.0											

主な指標

Q1 室内環境

2.1.3 外皮性能

窓システムSC		窓の日射熱取得率(η)			
U値(W/m2K)	窓システム	1.8	屋根	外壁	床
住戸部分	窓システムU値		外皮UA値	η AC	η AH
昼光率	1.4%				
自然換気有効開口面積率	3.3%				

3.1.1 昼光率

4.2.2 自然換気性能

Q2 サービス性能

1.1.1 広さ・収納性

1.1.2 高度情報通信設備対応

1.2.1 広さ感・景観

1.2.2 リフレッシュスペース

2.2.1 躯体材料の耐用年数

2.2.2 外壁仕上げ材の補修必要間隔

2.2.3 主要内装仕上げ材の更新必要間隔

2.2.6 主要設備機器の更新必要間隔

3.1.1 階高のゆとり

3.1.2 空間の形状・自由さ

3.2 荷重のゆとり

執務スペース	6.5㎡	/人	病床	.0㎡	/床	シングル	.0㎡	ツイン	.0㎡
コンセント容量	30.0	VA/㎡							
天井高	0	m							
リフレッシュスペース	0.0%		レストスペース	0.0%					
想定耐用年数	25	年							
想定必要間隔	50	年							
想定必要間隔	0	年							
想定必要間隔	15	年							
階高	4.6	m							
壁長さ比率	46.5%								
床荷重	2900	N/m2							

Q3 室外環境(敷地内)

1 生物資源の保全と創出

3.2 敷地内温熱環境の向上

外構緑化指数	17%	建物緑化指数	0%						
空地率	70%	水平投影面積率	5%	地表面対策面積率	14%	舗装面積率	35%		

LR1 エネルギー

1 建物外皮の熱負荷抑制

2 自然エネルギー利用

BPI/BPI _m	0.82	断熱等性能等級		等級2 相当						
自然エネルギー直接利用量	0	MJ/年㎡	採光を満たす教室数		80.0%	採光を満たす住戸数		80.0%		
			通風を満たす教室数		80.0%	通風を満たす住戸数		80.0%		
BEI/BEI _m	非住宅	0.82	住宅	-	太陽光	.0kW	太陽熱等	.0kW	蓄電池	.0kW

LR2 資源・マテリアル

1.2.1 雨水利用システム導入の有無

2.4 躯体材料以外におけるリサイクル材の使用

2.5 持続可能な森林から産出された木材

3.2.1 消火剤

3.2.2 発泡剤(断熱材等)

3.2.3 冷媒

雨水利用率	0.0%								
特定調達品目	-	エコマーク商品	ビニル床シート	自治体指定の特定品目等	-				
使用比率	0.0%								
オゾン層破壊係数(ODP)		地球温暖化係数(GWP)							
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	0.95						
オゾン層破壊係数(ODP)	0	地球温暖化係数(GWP)	0						

LR3 敷地外環境

2.2 温熱環境悪化の改善

見付面積比	72%	隣棟間隔指標R _w	1.71						
地表面対策面積率	22.0%	屋根面对策面積率	0.0%	外壁面对策面積率	#DIV/0!				
見付面積S _b	574㎡	卓越風向と直交する最大敷地幅W _s	32.07	m	基準高さH _b	25.01	m		
緑地	78㎡	水面	㎡	保水性対策面	㎡	高反射対策面	㎡	再帰性反射対策面	㎡